

(1)－3 外来魚駆除・カワウ対策

琵琶湖や内湖などで繁殖している北米産魚類のオオクチバスやブルーギル、竹生島等到大規模なコロニー(営巣地)をつくって繁殖している鳥類のカワウは、琵琶湖や河川などにおいて旺盛な食欲で水産資源を食い荒らし、生態系に深刻な影響を与えています。在来魚介類の食害を防ぎ、従来の生態系を保全するため、滋賀県ではこれら水産有害生物の駆除や被害防除のための取組を行っています。

外来魚の駆除

～事業の背景～

琵琶湖とその周辺では、昭和40年頃にブルーギル、昭和49年にブラックバス(オオクチバス)が発見されました。これらの外来魚は在来魚やその稚魚などを捕食するため、その異常繁殖に伴って、琵琶湖漁業のみならず琵琶湖の生態系にも深刻な影響を与えています。県では昭和60年度から外来魚駆除対策を開始し、現在も引き続き積極的な駆除対策や繁殖抑制対策に取り組んでいます。

～事業の内容～

〈外来魚駆除促進対策等事業〉 事業費:49,378千円 補助金額:23,653千円

(補助先:滋賀県漁業協同組合連合会)



エリで捕獲された外来魚

【外来魚駆除促】

エリ、刺網、沖びき網などを用いて漁業者が行う外来魚の捕獲駆除に要する経費(390円/kg)を補助しています。これに加えて瀬田川での捕獲数が急増し、瀬田川洗堰より上流でも捕獲されているチャネルキャットフィッシュを駆除します。令和5年度は年間捕獲目標量を85トンとし、事業を実施します。

【外来魚回収処理】

外来魚駆除促進対策事業などで捕獲した外来魚を回収し、魚粉原料として有効利用を行っています。

これらの事業を実施している滋賀県漁業協同組合連合会に対して経費を補助しています。

なお、この事業に対しては別途、全国内水面漁業協同組合連合会からの支援を受けています。



回収された外来魚

〈外来魚産卵期集中捕獲事業〉 事業費:900千円

◎南湖を中心とした外来魚集中捕獲のための電気ショッカーボートの運用維持管理



電気ショッカーボート「雷神」

これまでの調査研究から、外来魚駆除方法の一つとして、産卵期に電気ショッカーボートを用いて外来魚を捕獲することが効果的であることが明らかとなりました。

そこで、主に南湖において、産卵期を中心に、電気ショッカーボートによる外来魚の集中捕獲を実施するための電気ショッカーボートの運用維持管理を行います。

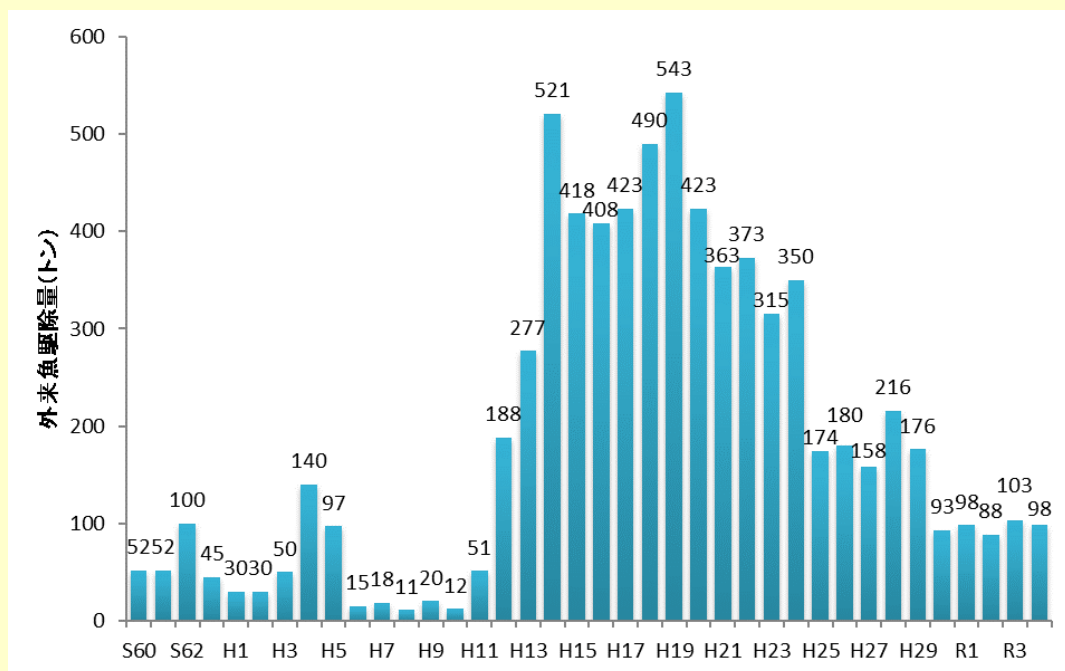
〈外来魚駆除対策検討会事業〉 事業費:120千円

近年、琵琶湖においては、これまでにない外来魚の生息量の大きな変動が起こっていることから、外来魚の生息状況や駆除状況に応じて効率的な駆除が行えるように、外来魚駆除検討会において助言をもらいながら進行管理を行います。

～事業の実績～

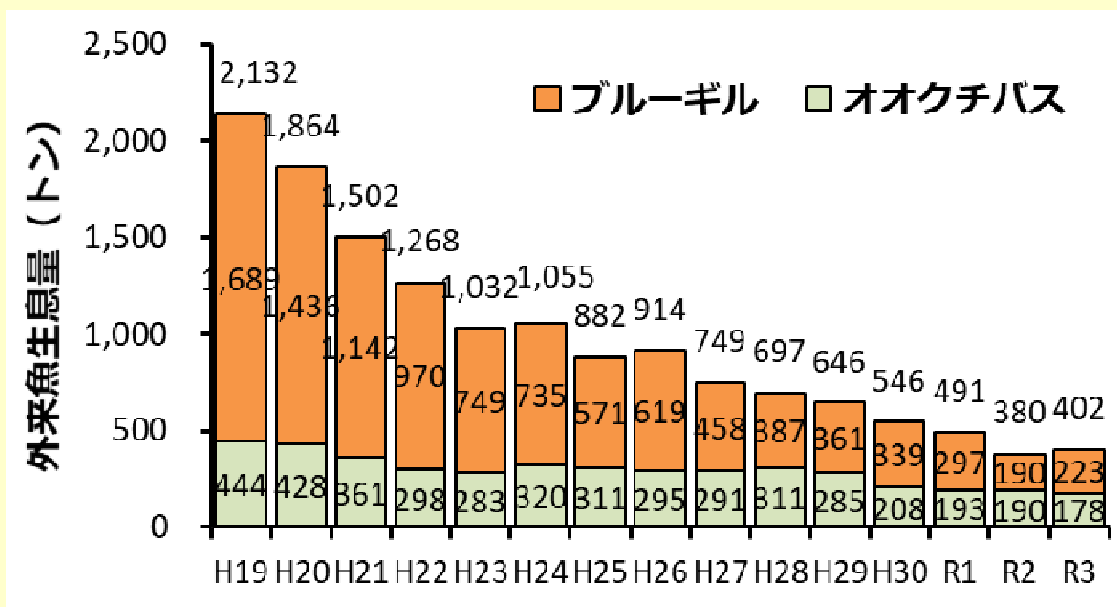
(1) 外来魚駆除事業における駆除量の推移

平成14年度から外来魚駆除の取組を強化し、平成29年度までは、毎年150トンから500トン程度を駆除していましたが、平成30年度以降は100トン前後の駆除量となっています。



(2) オオクチバスとブルーギルの推定生息量の推移

外来魚の推定生息量は、平成19年の2,132トンから平成23年には、1,032トンまで減少し、その後横ばいの状況が続きました。しかし、平成27年以降はさらに減少し、令和2年には380トン、令和3年には402トンとなりました。



※端数処理の関係上、合計と内訳の合算が異なる場合があります。

※推定は4月1日時点。